

しょうけい館 ー 戦傷病者史料館 ー
移転整備 設計内容について

令和5年6月

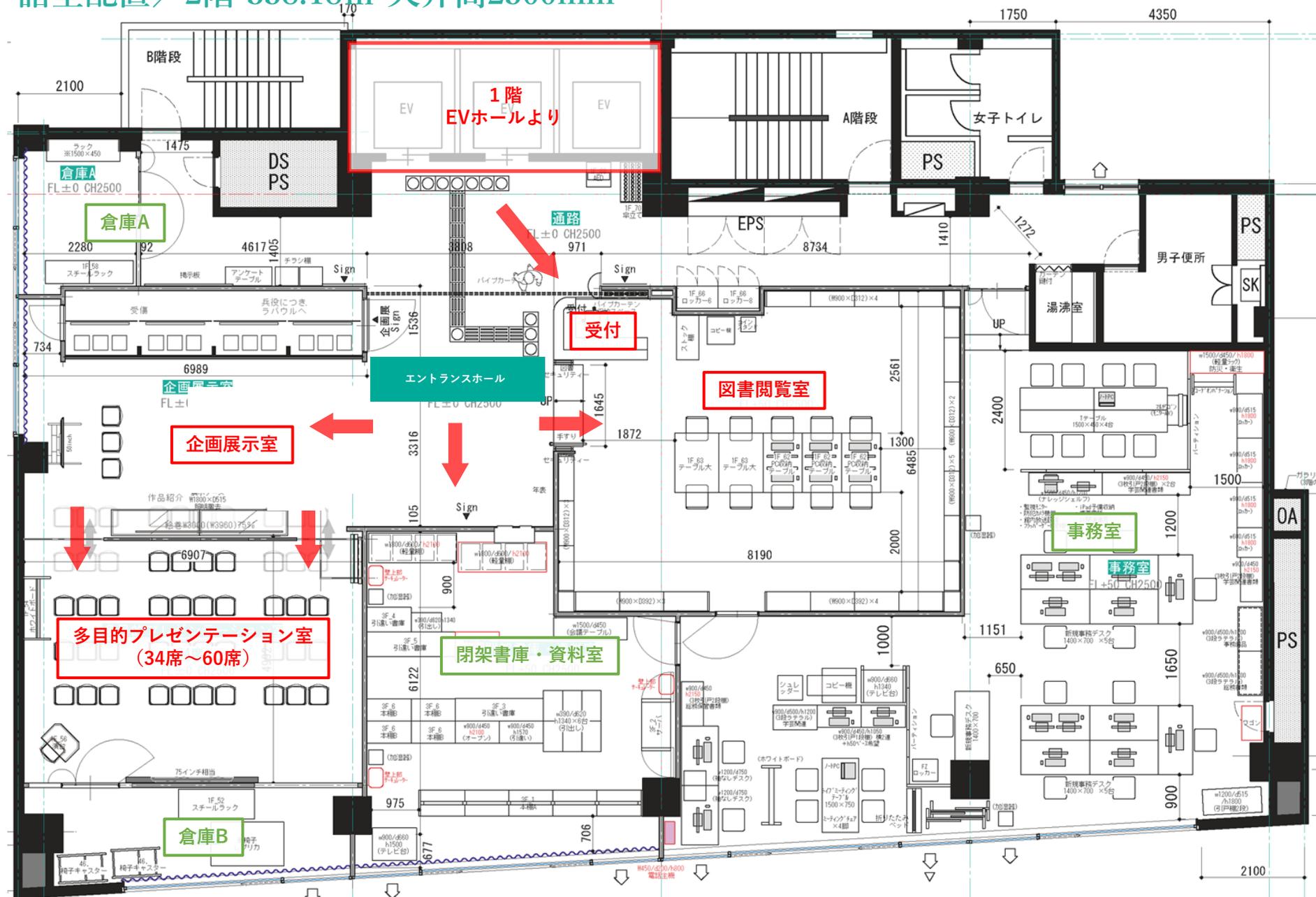
しょうけい館

I. 展示空間について（平面図、パース更新）	03
II. 常設展示室展示構成について（前回より修正・未提出分）	27
III. ご指摘事項への回答	35
IV. 今後のスケジュール	50

I. 展示空間について（平面図、パース更新）

I. 展示空間について (平面図、パース更新)

1. 諸室配置 / 2階 358.18㎡ 天井高2500mm



I. 展示空間について（平面図、パース更新）

2. 空間デザイン／2階

1) 鳥瞰イメージ



I. 展示空間について（平面図、パース更新）

2. 空間デザイン／2階

2) 目線イメージ①

EVホールから受付・エントランスホール方向を望む



■受付の形状をより機能的にデザインを更新した。

I. 展示空間について（平面図、パース更新）

2. 空間デザイン／2階

2) 目線イメージ②

エントランスホールを望む



■エントランスには、館を象徴するアイテムでもある義手・義足（レプリカ）を館名の脇の壁面へシンボリックに展示する。

I. 展示空間について（平面図、パース更新）

2. 空間デザイン／2階

2) 目線イメージ③

図書閲覧室入口から室内を望む



■ 閲覧スペースと情報検索端末席を、室内の中央に配置。受付（レファレンス機能）や閉架書庫を隣接させた機能的配置を確保する。

I. 展示空間について（平面図、パース更新）

2. 空間デザイン／2階

2) 目線イメージ④

エントランスホールから企画展示室方向を望む



■多目的プレゼンテーション室との境の壁面は可動式として、展示スペースにも、客席にもできるようにし、施設の自由度を高める工夫を凝らした。

I. 展示空間について（平面図、パース更新）

2. 空間デザイン／2階

2) 目線イメージ⑤

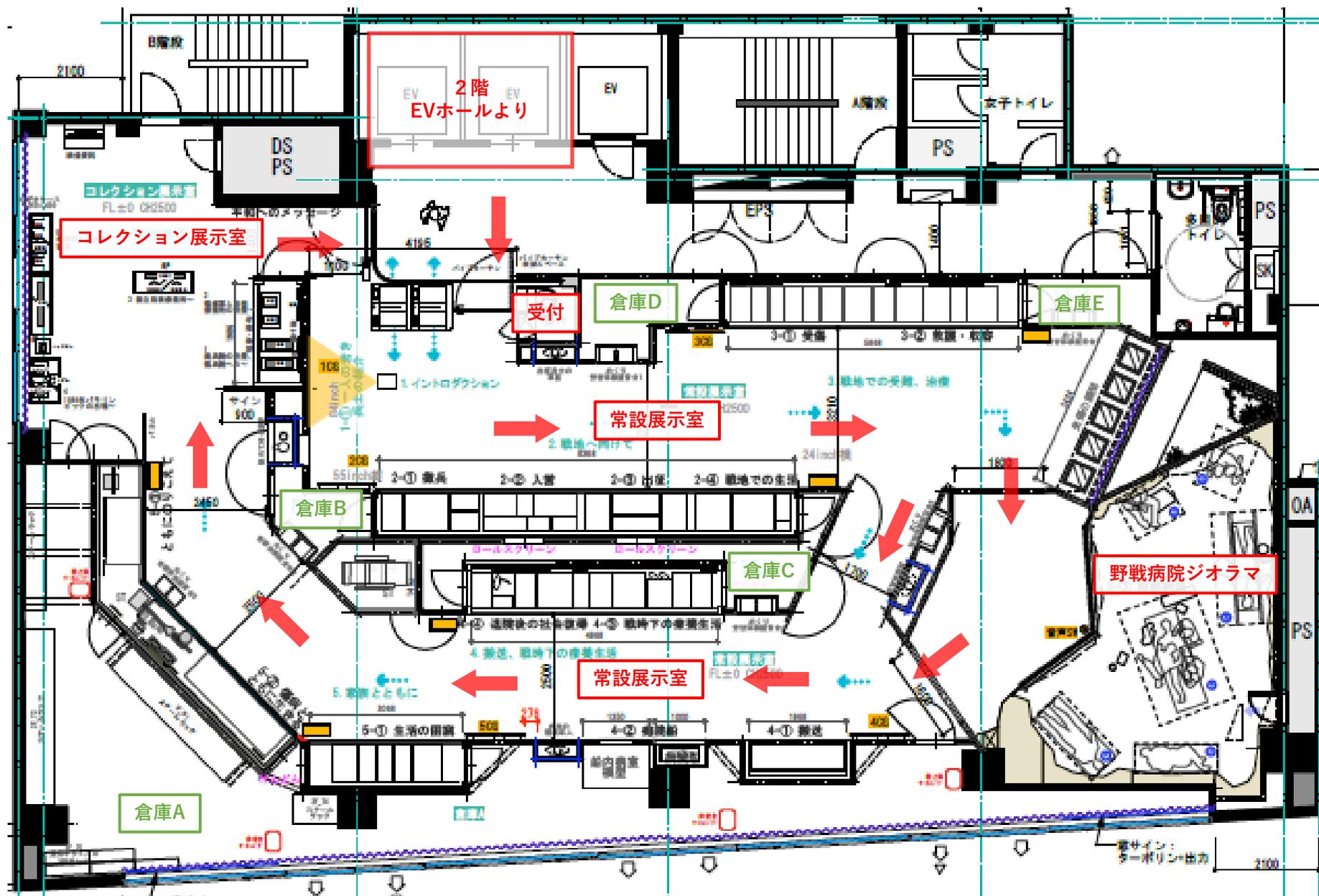
多目的プレゼンテーション室入口より室内を望む



■映像上映、語り部講話会、団体見学のオリエンテーション等、多様な使用目的に柔軟に対応するAVシステムを装備する。

I. 展示空間について (平面図、パース更新)

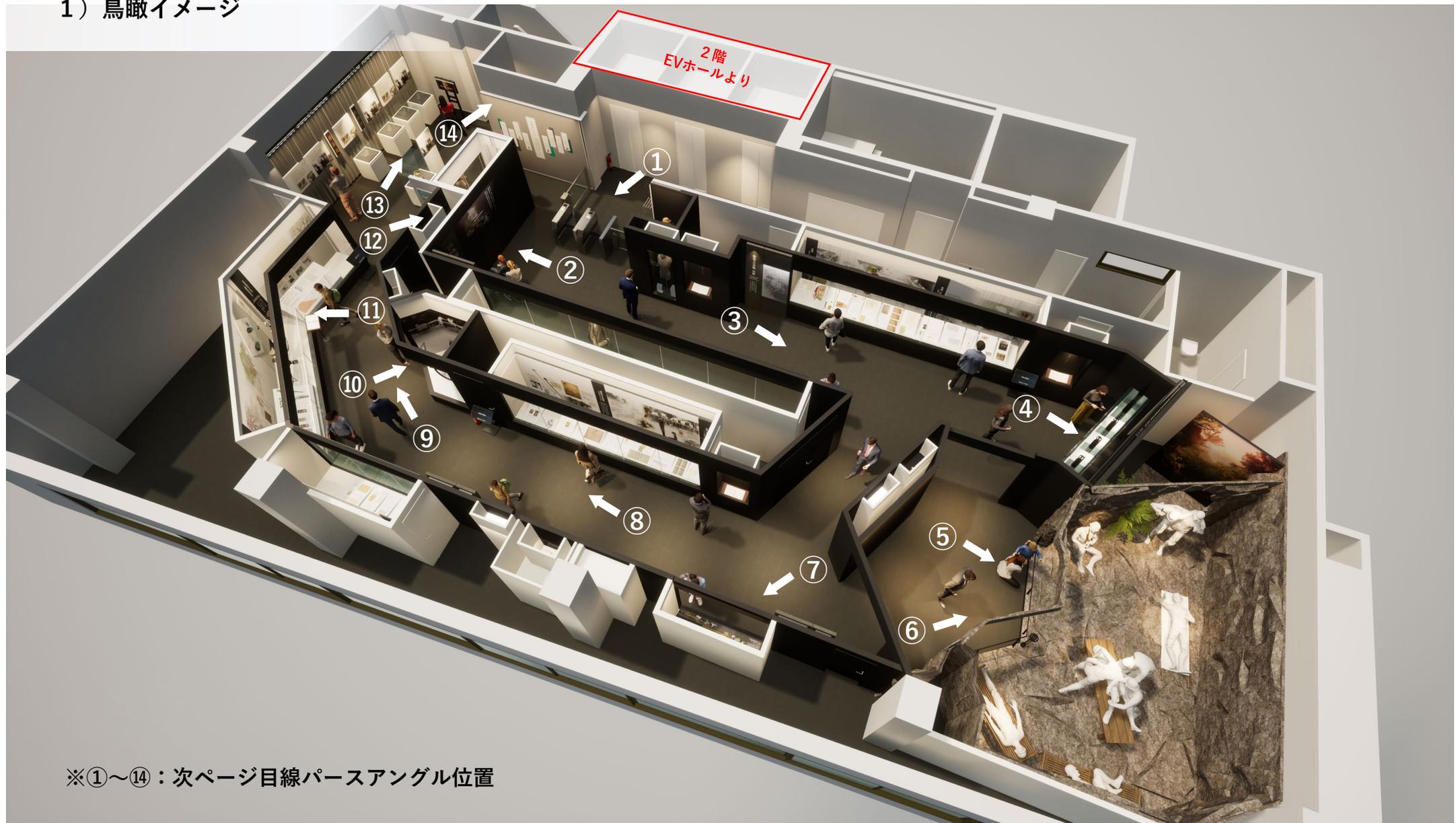
3. 諸室配置 / 3階 358.18 m² 天井高2500mm



I. 展示空間について（平面図、パース更新）

4. 空間デザイン／3階

1) 鳥瞰イメージ



※①～⑭：次ページ目線パースアングル位置

I. 展示空間について（平面図、パース更新）

4. 空間デザイン／3階

2) 目線イメージ①

EVホールから常設展示入口を望む



■受付要員の在・不在にかかわらず、オペレーションフリーな運営・管理することができるようにした。

I. 展示空間について（平面図、パース更新）

4. 空間デザイン／3階

2) 目線イメージ②

常設展示室入口内部からイントロダクション映像スクリーンを望む



■来館者が入口ゲートを通過したことを感知し、イントロダクション映像が自動的に上映される。

I. 展示空間について（平面図、パース更新）

4. 空間デザイン／3階

2) 目線イメージ③

展示室入口から野戦病院ジオラマ方向を望む



I. 展示空間について（平面図、パース更新）

4. 空間デザイン／3階

2) 視線イメージ④

シンボル展示を望む



■現状のシンボル展示の展示形状を踏襲し、野戦病院ジオラマ手間に設置する。

I. 展示空間について（平面図、パース更新）

4. 空間デザイン／3階

2) 目線イメージ⑤

野戦病院ジオラマを望む



■兵士の人形は、より見やすく解説が分かりやすい位置に配置を検討した。（47ページに検討詳細を記載）

I. 展示空間について（平面図、パース更新）

4. 空間デザイン／3階

2) 視線イメージ⑥

野戦病院ジオラマを望む



■ステージ中央に設置したボタンを押すと、音声と照明が連動して展示解説が展開される。

I. 展示空間について（平面図、パース更新）

4. 空間デザイン／3階

2) 目線イメージ⑦

野戦病院ジオラマ出口から後半の展示を望む



■搬送の展示は、現状より分かりやすいデザインを施し展示する。

I. 展示空間について（平面図、パース更新）

4. 空間デザイン／3階

2) 目線イメージ⑧

野戦病院ジオラマ出口から展示室戦後のコーナーを望む



I. 展示空間について（平面図、パース更新）

4. 空間デザイン／3階

2) 目線イメージ⑨

戦後のコーナーを望む



I. 展示空間について（平面図、パース更新）

4. 空間デザイン／3階

2) 視線イメージ⑩

車椅子展示ケースを望む



I. 展示空間について（平面図、パース更新）

4. 空間デザイン／3階

2) 目線イメージ⑪

戦後のコーナーを望む



■ 「戦争神経症」についての解説コメントを壁面展示へ追加する。

I. 展示空間について（平面図、パース更新）

4. 空間デザイン／3階

2) 視線イメージ⑫

体験展示コーナー（触れる展示）を望む



■義手・義足（レプリカ）に触って、質感や重さ等を感じてもらい、常設展示をふり返る。

I. 展示空間について（平面図、パース更新）

4. 空間デザイン／3階

2) 目線イメージ^⑬

常設展示室からコレクション展示室を望む



■上記パースは、「箱根療養所」をテーマとした収蔵品展をイメージし作成した。

I. 展示空間について（平面図、パース更新）

4. 空間デザイン／3階

2) 視線イメージ^⑭

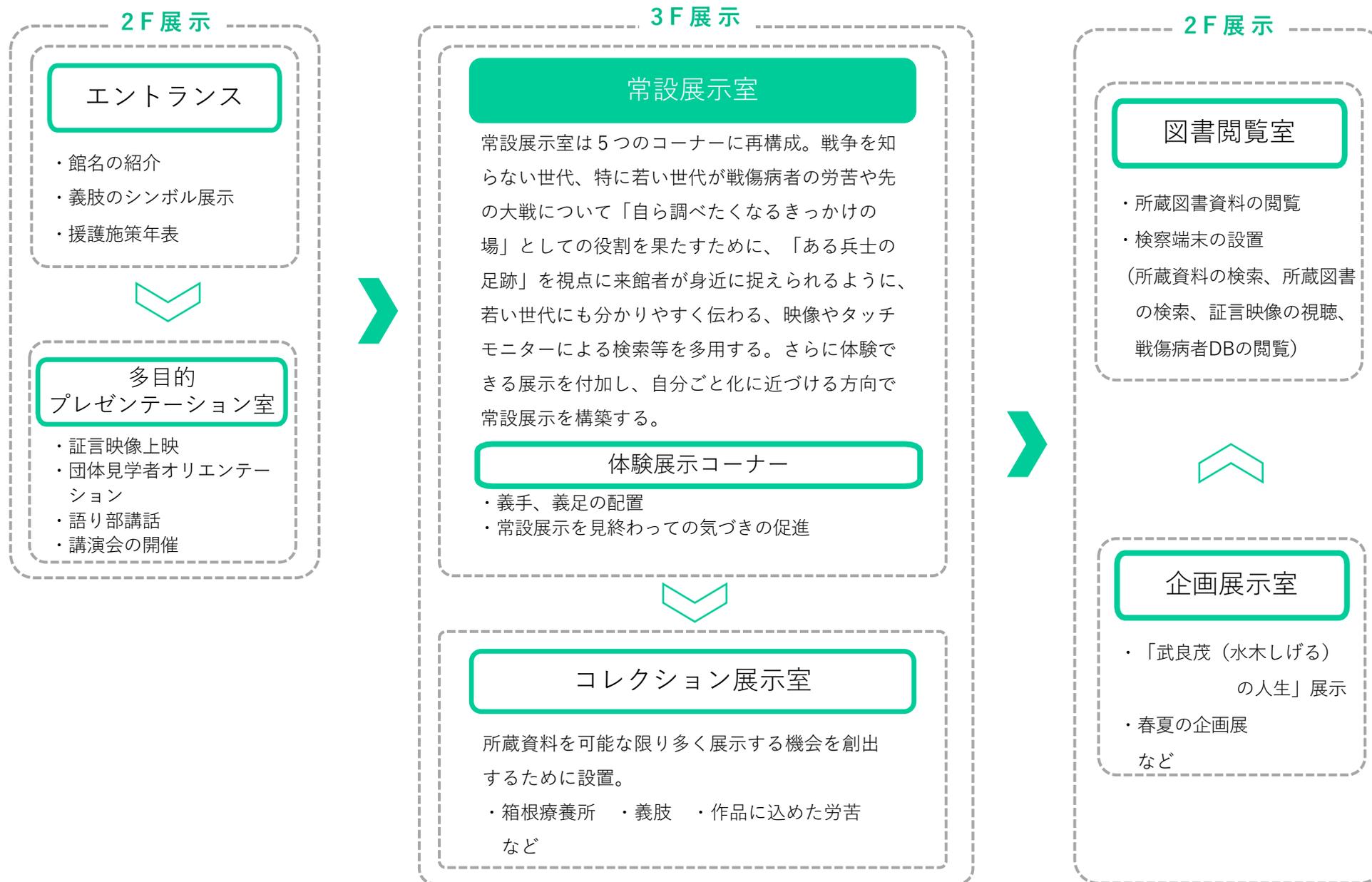
コレクション展示室から展示室出口方向を望む



II. 常設展示室展示構成について

II.常設展示室展示構成について

1. 全体の概要（展示体験のながれ）

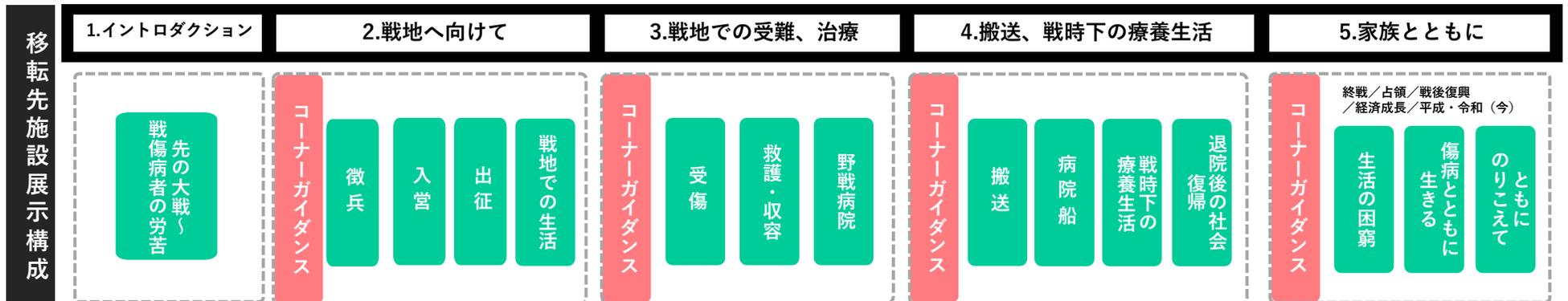


II.常設展示室展示構成について

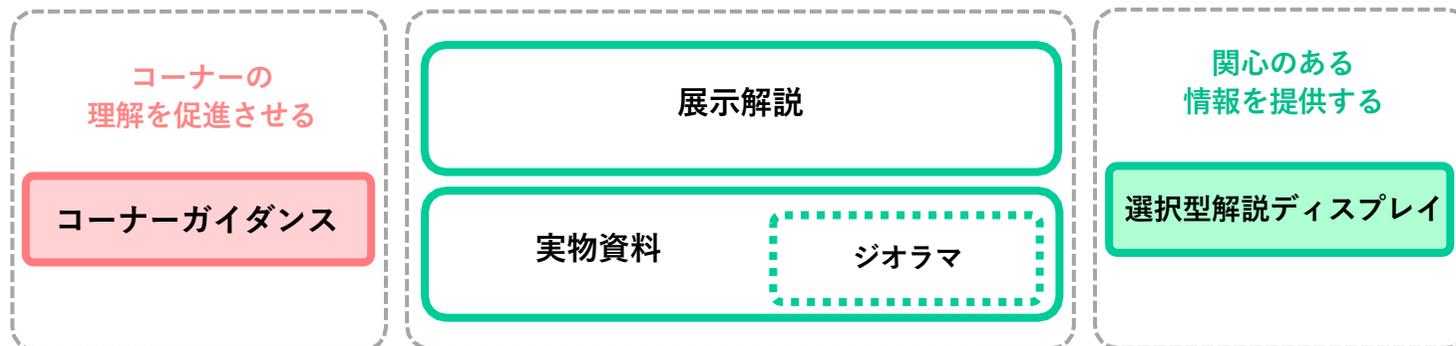
2. 常設展示室 基本構成



■ 展示内容構成



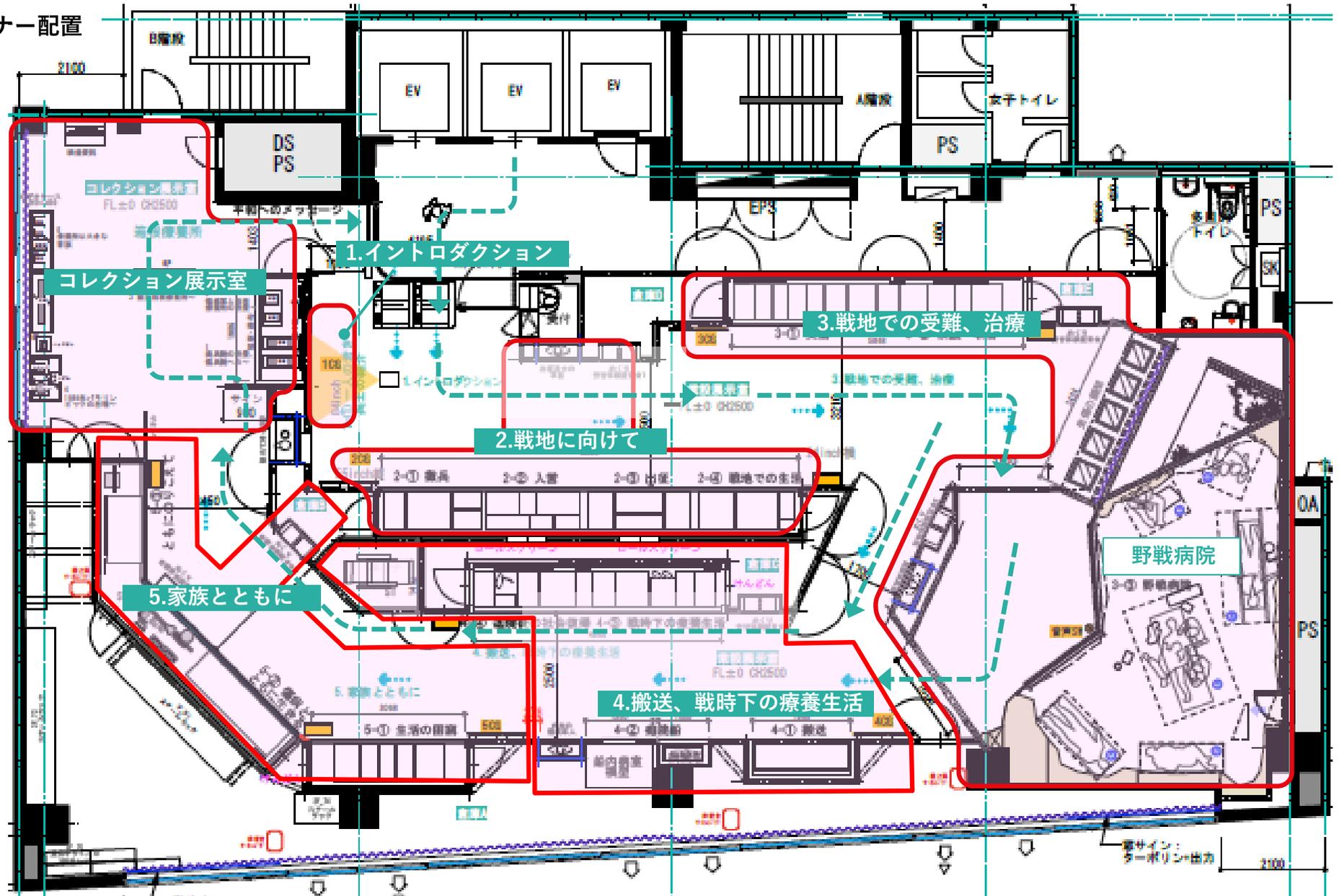
■ 展示手法構成（各コーナーでの構成）



II.常設展示室展示構成について

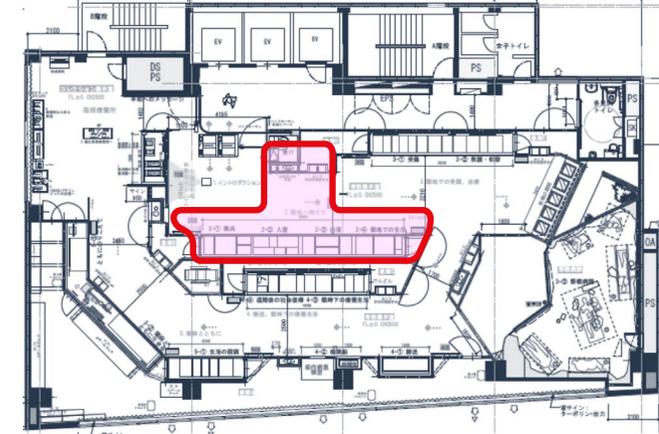
3. 常設展示室 全体コーナーについて

■ 各コーナー配置



II.常設展示室展示構成について

4. 常設展示室 コーナー2.「戦地に向けて」



▼壁面展示台

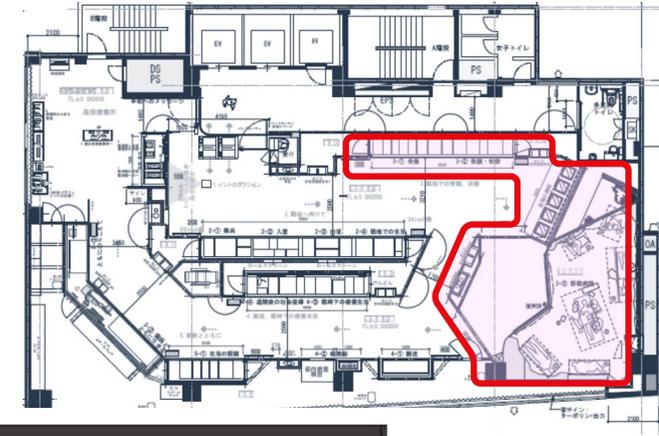


▼ステージ展示台



II.常設展示室展示構成について

4. 常設展示室 コーナー3. 「戦地での受難」



▼壁面展示台

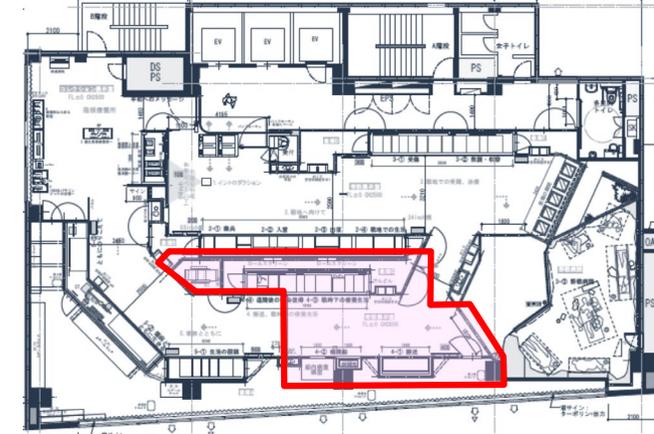


▼ステージ展示台

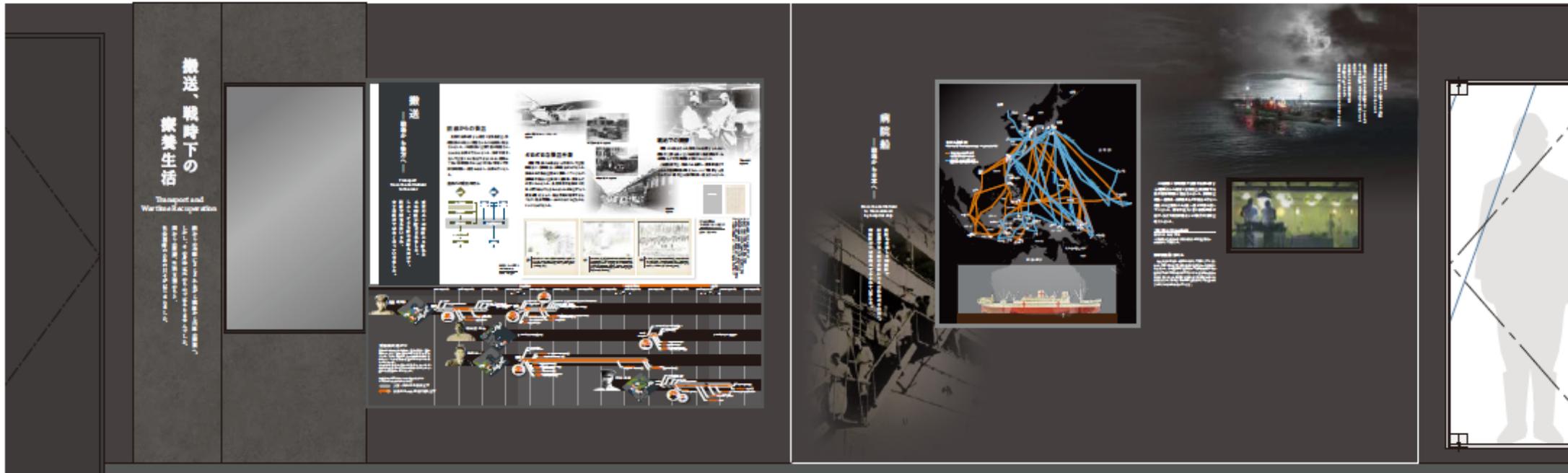


II.常設展示室展示構成について

4. 常設展示室 コーナー4. 「搬送、戦時下の療養生活」



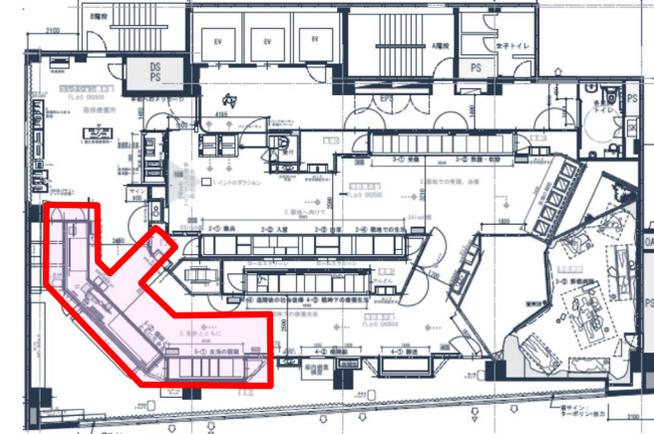
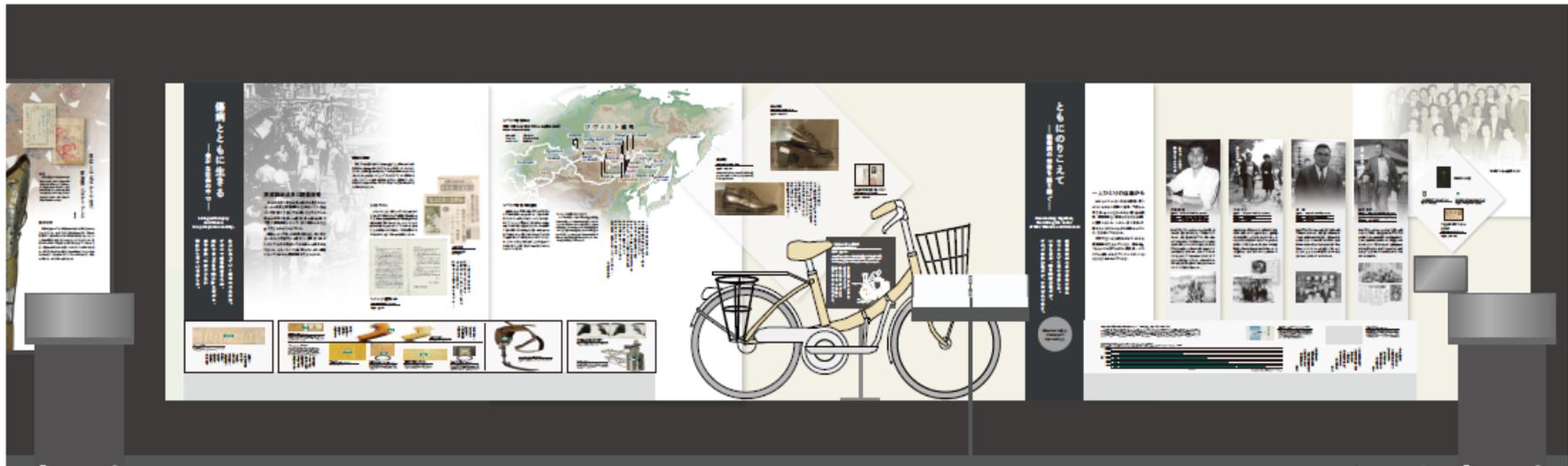
▼壁面展示台



II.常設展示室展示構成について

4. 常設展示室 コーナー5. 「家族とともに」-①

▼壁面展示台



Ⅲ. ご指摘事項への回答

Ⅲ. ご指摘事項への回答

各コーナー毎に設置される選択型解説ディスプレイについて、車椅子の方が見た時にも、きちんと視認できる角度等に設置すること。

■展示ケース等の高さ操作性の検証

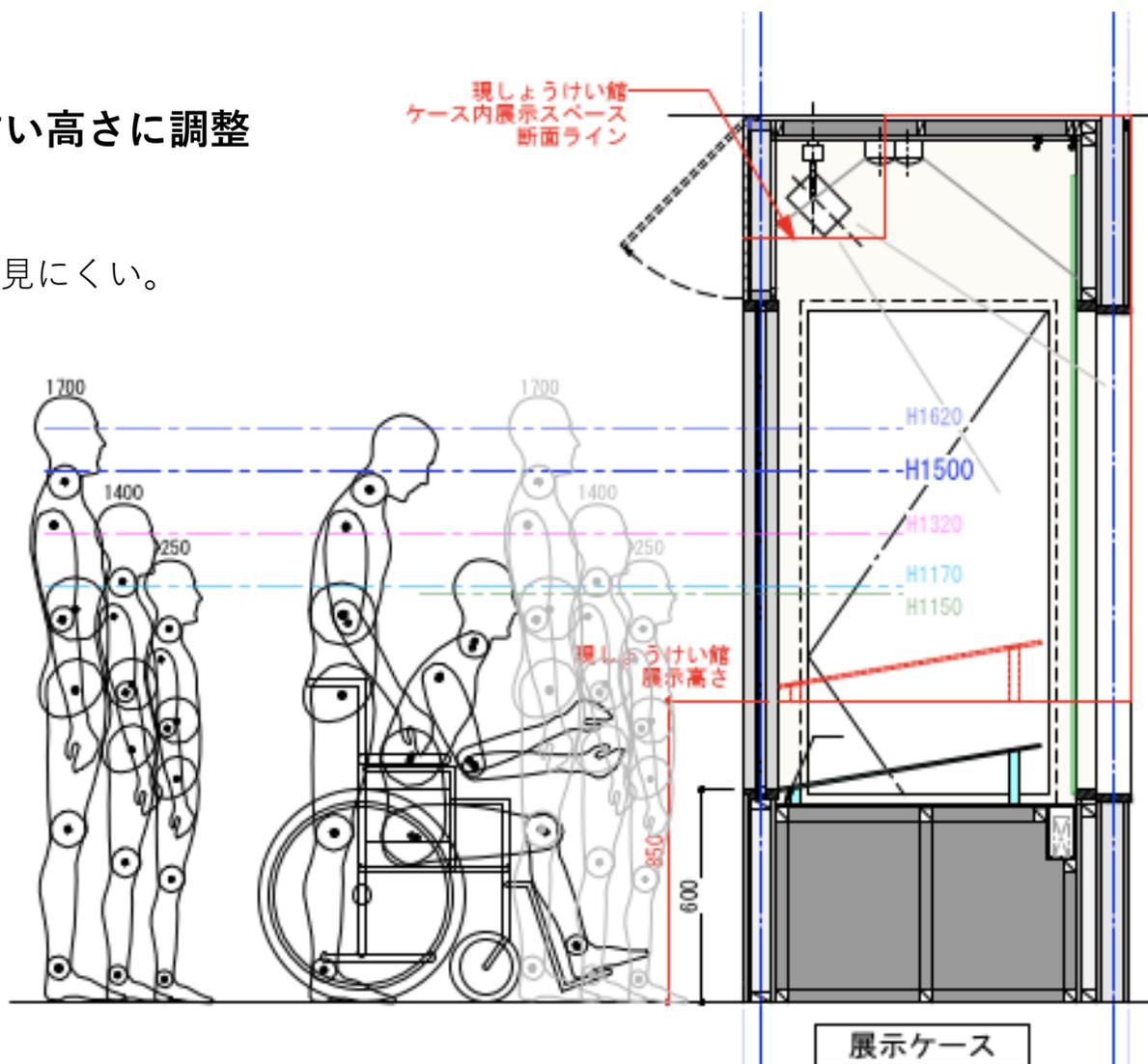
①展示ケースの高さ：車椅子でも見やすい高さに調整

<ケース内資料展示の高さ>

■現展示850mmで高いため、車椅子からは見にくい。

↓

■改善：600mmと低めにし
車椅子でも見学しやすい高さとした。



III. ご指摘事項への回答

各コーナー毎に設置される選択型解説ディスプレイについて、車椅子の方が見た時にも、きちんと視認できる角度等に設置すること。

②タッチパネル型モニター・めくり展示：操作性の検証

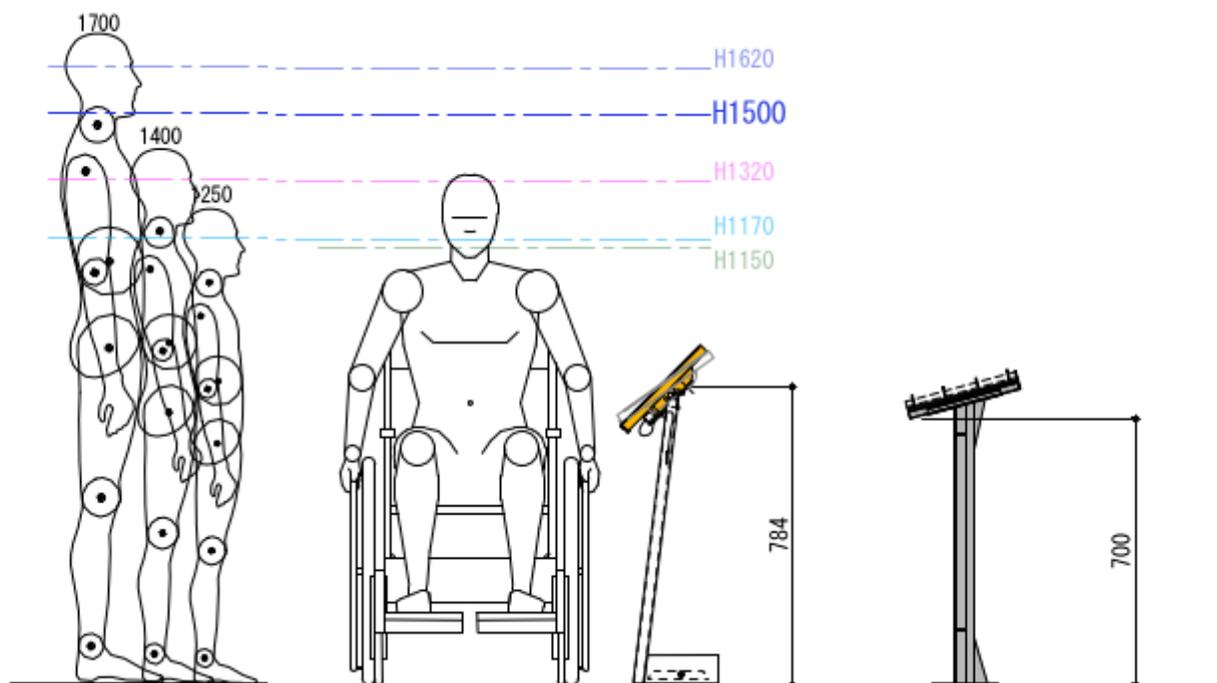
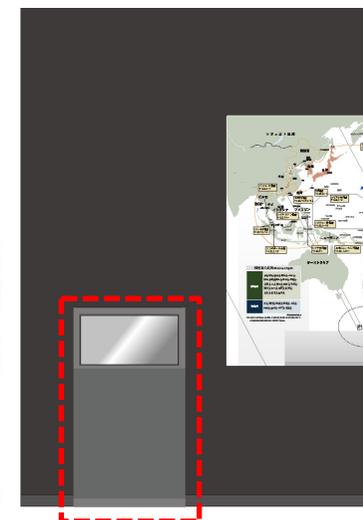
<タッチパネル型モニター>

車椅子からの操作性も考慮し、

■モニター（21インチ）の高さは784mm（モニタセンター：底辺≠700mm）
この数値を基準に展示環境等を配慮した上で決定する。

■角度は検証結果から45°を基準に展示環境等を
配慮した上で決定する。

※めくり展示はめくり易い、高さ700mmを基準に
展示環境等を配慮した上で決定する。



※タッチモニターへのアプローチは横向きを想定

III. ご指摘事項への回答

各コーナー毎に設置される選択型解説ディスプレイについて、車椅子の方が見た時にも、きちんと視認できる角度等に設置すること。

③ タッチパネル型モニター：車椅子での操作性の検証 <モニターの角度を40° /45° /50° /55° で検証>



車椅子40



車椅子45



車椅子50



車椅子55

角度が浅く若干見にくい

操作しやすく見やすい角度

角度が高くなると、操作性・見やすさも劣る

④ タッチパネル型モニター：立った場合の操作性の検証 <モニターの角度を40° /45° /50° /55° で検証>



立ち40



立ち45



立ち50



立ち55

角度が浅く上から覗き込む感じになる

操作性も見やすさも適正で安定感がある

角度が高くなると見にくくなり、操作性も違和感を感じる

III. ご指摘事項への回答

各コーナー毎に設置される選択型解説ディスプレイについて、車椅子の方が見た時にも、きちんと視認できる角度等に設置すること。

⑤ タッチパネル型モニター操作性の検証結果

<検証結果 ▶ 適正角度 45°を基準値として設定 検討>



車椅子 45°



立ち 45°

※画面への映り込み（反射）も考慮し、現場で角度調整できる機能も検討中

Ⅲ. ご指摘事項への回答

各コーナー毎に設置される選択型解説ディスプレイについて、車椅子の方が見た時にも、きちんと視認できる角度等に設置すること。

■バリアフリー法に基づく対応

移転先であるグリーンオーク九段は、事務所としての用途であったため、しょうけい館入居に伴い、バリアフリー法に基づき、以下の対応を行う。

【移転先しょうけい館における、バリアフリー法対応項目】

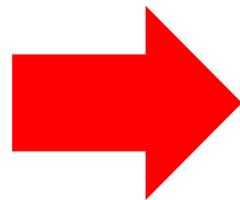
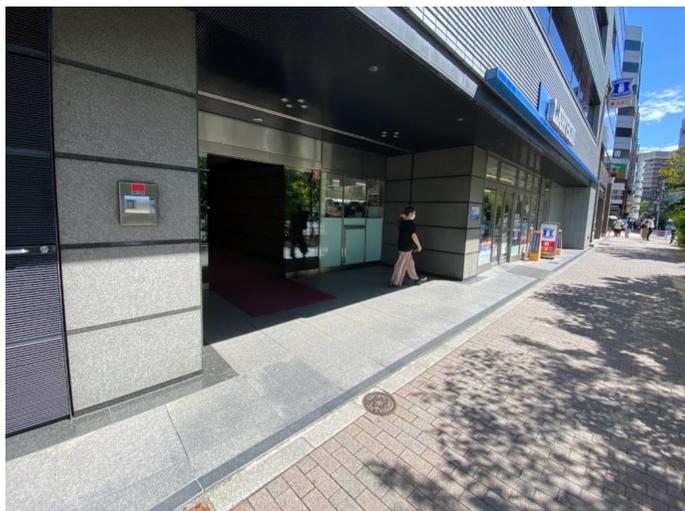
- ・ 1F 点字ブロックの設置 **※工事完了**
- ・ 2F エレベーターから受付カウンターまで点字ブロック設置
- ・ 3F エレベーターから多目的トイレまで点字ブロック設置
- ・ 1F 点字施設案内板の設置
- ・ 2F 図書閲覧室のスロープ設置（勾配1/12以内）
- ・ 2F／3F 展示室内通路は幅140cm以上確保
- ・ 3F 車椅子用トイレの設置 **※工事完了**
- ・ 共有 車椅子用エレベーターの設置 **※工事完了**

Ⅲ. ご指摘事項への回答

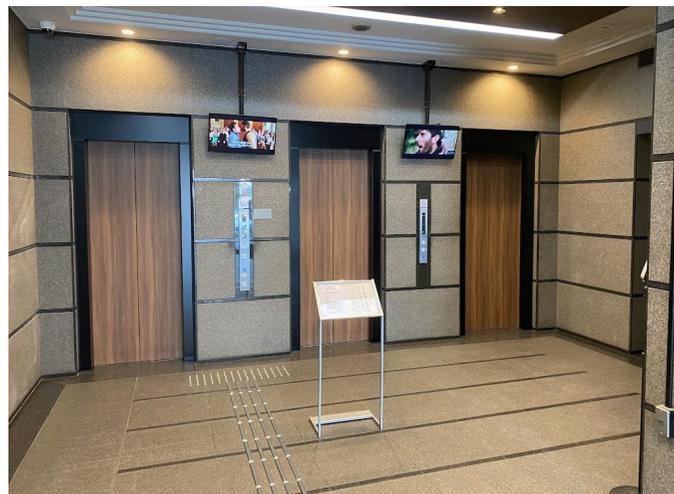
各コーナー毎に設置される選択型解説ディスプレイについて、車椅子の方が見た時にも、きちんと視認できる角度等に設置すること。

■バリアフリー法に基づく対応 – ①点字ブロックの設置

<対応工事前> : 1F 点字ブロックの不設置



<対応工事後> : 1F 点字ブロックの設置



Ⅲ. ご指摘事項への回答

各コーナー毎に設置される選択型解説ディスプレイについて、車椅子の方が見た時にも、きちんと視認できる角度等に設置すること。

■バリアフリー法に基づく対応 – ③エレベーターの対応

<対応工事前> : 車椅子E Vの不設置



<対応工事後> : 車椅子E Vの設置



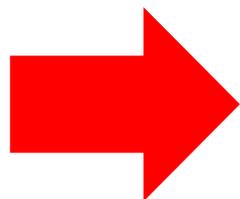
- ・車椅子用操作盤設置
- ・手摺設置
- ・正面ミラー設置
- ・車椅子用巾木設置

Ⅲ. ご指摘事項への回答

各コーナー毎に設置される選択型解説ディスプレイについて、車椅子の方が見た時にも、きちんと視認できる角度等に設置すること。

■バリアフリー法に基づく対応 - ④トイレの対応

<対応工事前> : 多目的トイレの不設置



<対応工事後> : 多目的トイレの設置



- ・車椅子用便座設置
- ・手摺設置
- ・オストメイト設置
- ・ベビーチェア設置
- ・車椅子回転スペース確保

III. ご指摘事項への回答

弱視や色覚障害、高齢者など見えにくい色やコントラストなどがあるのでディスプレイに配慮が必要。

■グラフィックにおける対応

- グラフィックパネルの色構成は、グラフィック作成ソフトIllustratorの「色の校正機能」を活用して、色覚障害（主にP型、D型色覚）の方でも認識しやすい配色を採用する。

<色覚例>



C型(一般色覚)



P型色覚



D型色覚



C型(一般色覚)



P型色覚



D型色覚

■映像コンテンツにおける対応

- 色覚障害を確認できるアプリケーション（「色シミュレータ」）を使用した色覚障害テストを実施して、色覚障害（P型・D型・T型）の方でも認識しやすい配色に配慮する。

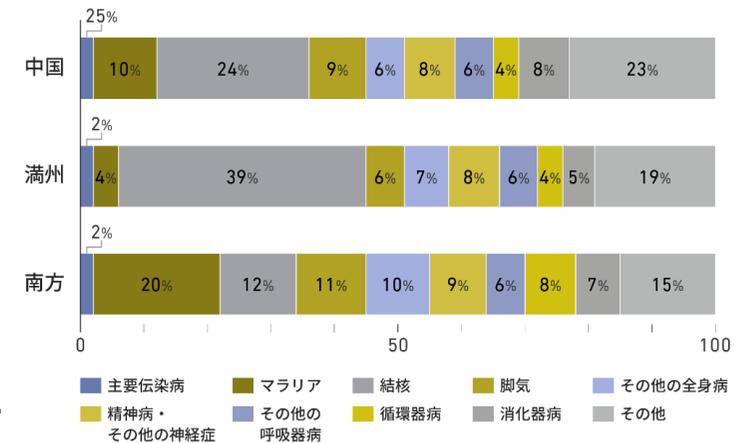
III. ご指摘事項への回答

弱視や色覚障害、高齢者など見えにくい色やコントラストなどがあるのでディスプレイに配慮が必要。

■グラフィックにおける対応

- ・実際に見える色をチェック。極力多色を避け、配色に配慮。
- ・赤と緑は見えづらいので、青やオレンジを使用。
- ・多色の使用はできる限り避ける。
- ・多色を使用した場合もフィルターで配色をチェックし適切な色使いへの配慮をする。

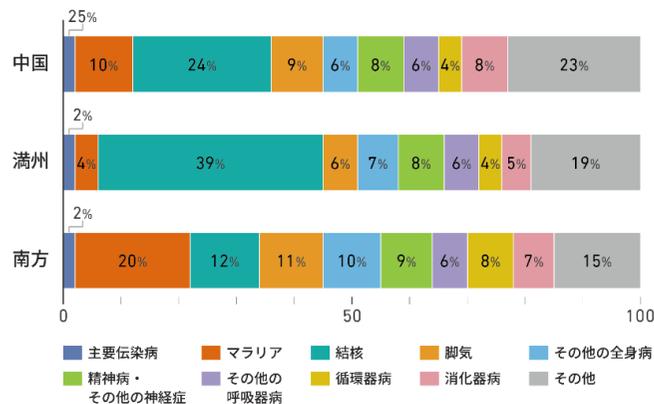
地域別戦病者発生状況(陸軍)



出所：陸軍自衛隊衛生学校編刊「大東亞戦争陸軍衛生史」1971（昭和46）年

<多色を使用した場合の校正比較例>

地域別戦病者発生状況(陸軍)

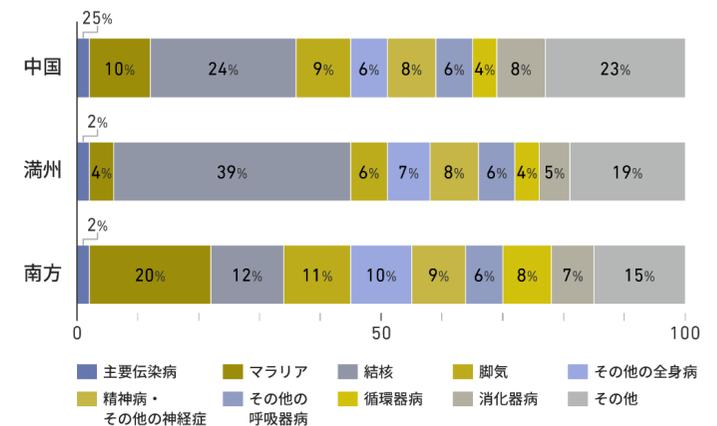


出所：陸軍自衛隊衛生学校編刊「大東亞戦争陸軍衛生史」1971（昭和46）年

P型の見え方

D型の見え方

地域別戦病者発生状況(陸軍)



出所：陸軍自衛隊衛生学校編刊「大東亞戦争陸軍衛生史」1971（昭和46）年

III. ご指摘事項への回答

弱視や色覚障害、高齢者など見えにくい色やコントラストなどがあるのでディスプレイに配慮が必要。

■映像コンテンツにおける対応

- ・実際に見える色をチェック。映像表現としての認識しやすさ、字幕の認識しやすさに配慮した配色をする。
- ・映像表現として、誤った認識を与えないような配色に配慮をする。

<各映像コンテンツの校正比較例>

①イントロダクション映像例

②コーナーガイダンス映像例

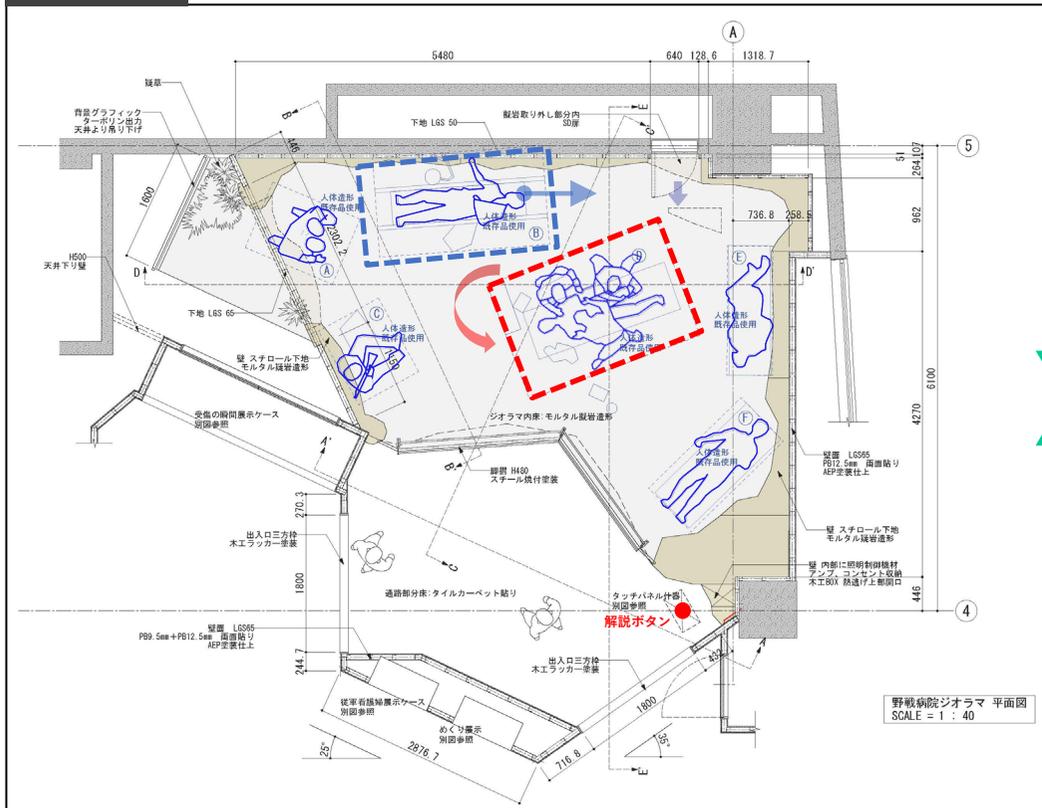


III. ご指摘事項への回答

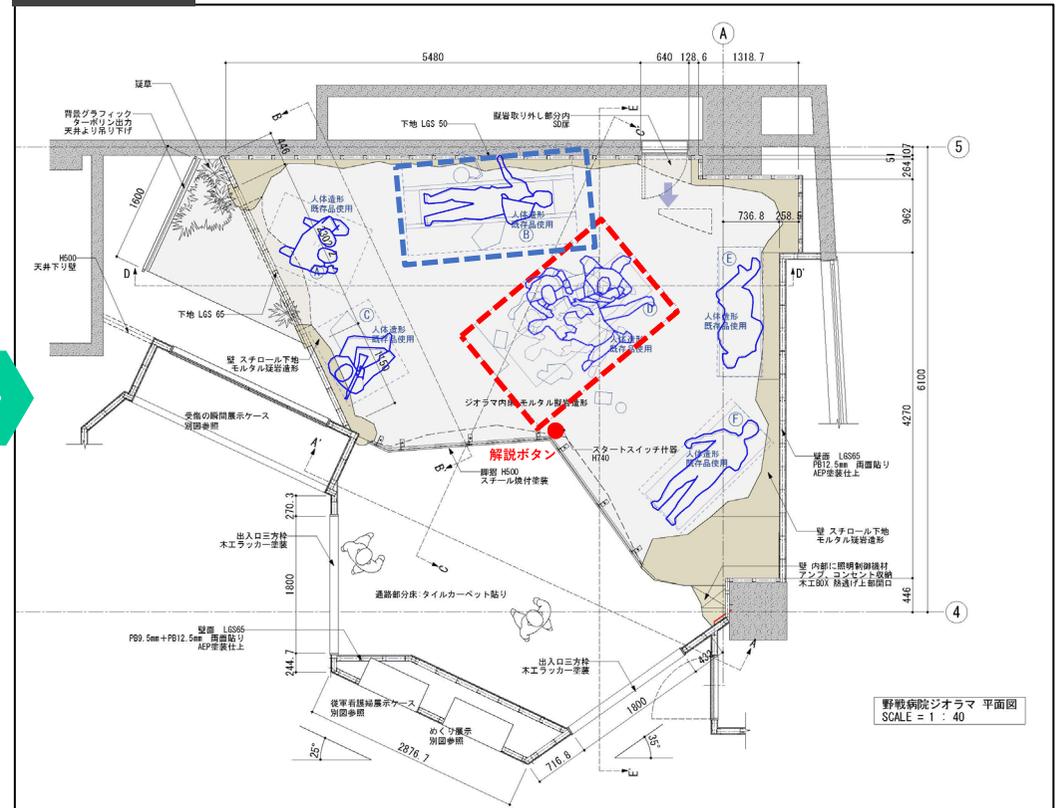
3. 野戦病院ジオラマ展示における人物の配置が見えづらい部分があるように感じるため調整が必要なのではないか。

対応方法： 野戦病院ジオラマの配置を再度検討し、人物配置がみえやすい角度に修正した。設置方向を改善した中央の展示を来館者により近い位置に移動し、中央奥の展示もエリア中央に寄せた。また、照明と連動した音声解説ボタンをステージ中央手前（人物側）に設置し、最も見やすい場所で見てもらえるようにした。

修正前



修正後

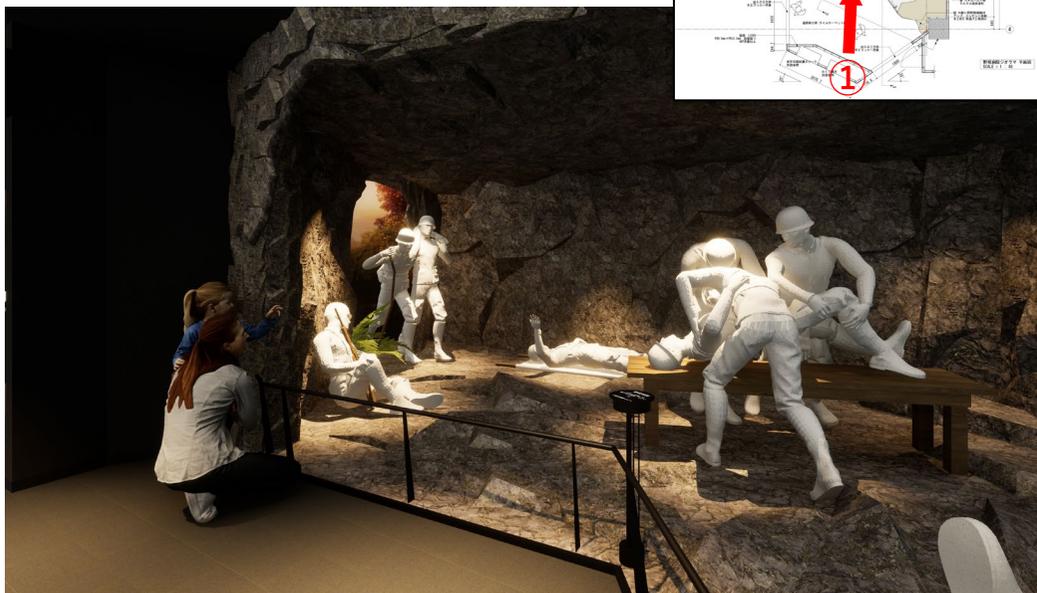
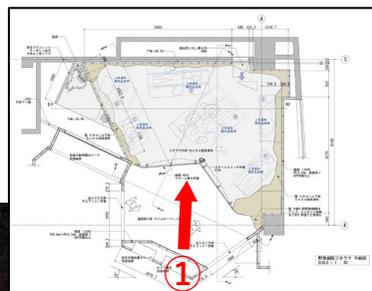


Ⅲ. ご指摘事項への回答

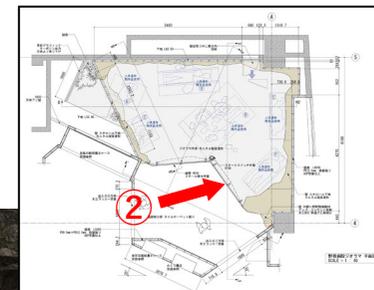
野戦病院ジオラマ展示における人物の配置が見えづらい部分があるように感じるため調整が必要なのではないか。

- **通常時：** ジオラマ全体が均一に照明が当たり、野戦病院の全容を見ることができる。
- **演出時：** ジオラマ中央にある解説ボタンを押すと、照明と連動して音声解説が流れる。
ジオラマ全体の照明が暗転し、まずジオラマの向かって左側、野戦病院の入口付近の照明が点灯し、音声解説が始まる。左側部の解説が終わると、次に中央部に照明が点灯し、音声解説が始まり、最後は右側部分を解説するため、ジオラマの人形をくまなく見ることができる。

〈①の視点から見たイメージ〉



〈②の視点から見たイメージ〉



Ⅲ. ご指摘事項への回答

導入部分の映像案については、しょうけい館の展示は過去に起こった事実を客観的に展示することに意味があり、それをどう受け取るかは見た人の判断に委ねたほうがいいと思う。

この館の永続性を考えると、誘導的なものにならないよう慎重に検討した方がいいと思う。

私たちは、今回制作する映像コンテンツについて、次のように位置づけ取り組む。

映像コンテンツは、展示体験全体を通して、自分ごととして捉えづらい
戦傷病者を、その労苦を実感してもらうために、
フラットな目線での情報を提供するツールとしての役割を担う。

3Fイントロダクション映像

戦争と聞いても「昔のこと、遠い国のこと、知ってはいるが自分たちには関係のない事」と、教科書やテレビの中での出来事と捉えてしまいやすい若年層に対し、自分たちの身に起こる可能性があること、その可能性を自分ごととして感じてもらいながら展示を見てもらい、見学体験の質・密度を高めてもらう為の入り口としての役割。

現代パートを使用することで、自己投影し自分ごととして想像しやすく、展示内容に向き合いやすくするためのフックとしての映像。

2F団体向けガイダンス映像

歴史的事実として、日中戦争～太平洋戦争がどのような経緯で行われたのかをフラットな目線で解説し、3階常設展示の見学による学びをより深いものにするために、土台となる情報を知識として身につけてもらうための映像。

3Fコーナーガイダンス映像

展示内容をより分かりやすく、自分ごととして想像しやすくするために、戦傷病者の最大公約数的な代表として「ある兵士」を登場させ、「ある兵士」が何を感じ、何を思ったのかを文字とシルエットで表現。

これを導入することで、展示内容に向き合いやすく、戦傷病者が抱いた不安や葛藤、多くの苦難を実感しやすくする。

IV. 今後のスケジュール

IV. 今後のスケジュール

1. 今後の展示内容ご確認について

- ・ 令和5年 6月29日 有識者会議（本日）
- ・ 令和5年 7月中 構成員の皆様へ資料送付、展示内容のご確認依頼
（2回程度想定）

2. 今後の主な工程

- ・ 令和5年 6月現在 施工業務 進行中
- ・ 令和5年 7月31日～ しょうけい館閉館
- ・ 令和5年 8月～9月 引っ越し作業及び開館準備
- ・ 令和5年 9月末 施工業務 完了
- ・ 令和5年 10月初 しょうけい館移転 開館予定

※上記スケジュールは、現時点での予定である。そのため今後の進捗により、変更する可能性がある。